

《はじめに》

普段私達が関わる介護の世界において、主体性の大切さが重視されていますが、病気等で自ら行動することが難しくなった時、最後まで主体的な生活が維持できているのでしょうか？今回関わらせて頂いた方を通して考えました。状況は変わっても幸せを感じて生きて頂きたいと思い、やりたいことを尋ねると、「もう一度カープの試合を観に行きたい」と話されました。痰吸引や、一時間毎に休憩を取らなければいけない状況で、奥様は無理だろうと心配されましたが、ご本人は「絶対行く」と主張されました。カープ観戦に向けて、水分や食事の摂取や座位訓練などを続けました。

《事例》 81歳 男性 要介護4 進行性核上性麻痺

《これまでの経過と取り組み》

H23年、進行性核上性麻痺と診断され、H25年より当デイサービスの利用を開始されました。

H28年、嚥下障害・構音障害等の症状が徐々に目立つようになりました。出来ない事が増える一方で、ご本人は「これまでと同じように過ごしたい、リハビリをして一人で歩けるようになりたい」と言われるなど、葛藤されていました。心のケアと、より深い信頼関係の必要性を感じ、この方の生活歴や思い出を探り、どのような価値観で生きて来られたのか、どんな人生を歩んで来られたのか知ることから始め、出来ない事が増えても、本人主体の生活を守りたいと、関わりを進めました。

その中で、以前は毎年結婚記念日に奥さんにワインをプレゼントされていた事を知りました。ご自身での外出が出来なくなって諦めていた…その想いを実現したいと思い、外出支援をすることで、ご自分でプレゼントすることができました。

《カープ観戦》

9/14(木) DeNA戦 マジック2が点灯し、カープの優勝が懸かった試合を、奥様と一緒に観戦することが出来ました。

病気と闘いながら一生懸命に生きておられる姿に、いい加減な関わり方はでき

ないと思いました。病状の進行に合わせて試行錯誤してきましたが、それだけではこの方の“本当の幸せ”とは何かに向き合えていない事に気づき、あらためて主体性について考え直しました。様々な事が難しくなり、どうすればこの方が幸せだと感じられるのか、どんな事に楽しみや生きがいを感じられるのか、本当の主体性とは何か悩みました。ご本人の人生の背景を探り、たくさんの関わりを通じて少しずつ見えてきたように思います。

主体性という言葉の意味深さを感じながら、この方と関わらせて頂きました。そして、介護とは、その人らしい生活や、幸せに生きることの援助であると再認識しました。